

① 教職員による自己評価は、校長、教頭、事務長を除く本校の正規職員 67 名に配付し、10 月 16 日提出締切で行った。回収率は 100%である。

② 教職員による自己評価の評価項目は、学校運営計画の「学校経営の重点」に示された本校における「教育活動の方針」と「経営活動の方針」に基づき、「経営参加と協働」に関する項目 3、「研修・育成」に関する項目 1、「連携・支援」に関する項目 2、「教育環境の整備」に関する項目 4、「児童生徒の将来を見据えた教育活動の展開」に関する項目 2、「児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導の充実」に関する項目 1、「新学習指導要領への移行をふまえた教育課程の確実な実施と評価の推進」に関する項目 3、「一人一人のキャリア発達を踏まえた進路指導の推進」に関する項目 1、「児童生徒の発達段階・年齢段階に即した生徒指導の推進」に関する項目 1、「学校生活を支える体育・健康に関する指導の推進」に関する項目 1、「寄宿舎における年齢段階や障がい等の特性等に応じた指導の推進」に関する項目 1 の合計 11 項目で構成されている。

③ 結果の集計方法は、評価尺度を 4 段階に設定し、数値化して集計した。

④ 評価基準は、下の表のとおりである。

評価	評 価 基 準		結 果 分 析
4	とてもできている	8 割以上取組ができた	とてもよく取組ができています
3	ほぼできている	6 割以上取組ができた	ほぼ取組ができています
2	あまりできていない	5 割以上取組ができた	工夫・改善が望まれる
1	できていない	5 割未満しかできていない	改善が必要である
	わからない		

⑤ 教職員による学校評価（自己評価）は、各項目の平均値を昨年度の平均値と比較して、各項目の今年度の取組について評価する方法とした。また、平均値は、小数第 3 位を四捨五入し、小数 2 位まで算出した。表の網掛け部分が今年度の各項目の平均で、その右横が昨年度の平均である。

⑥ 増減は今年度の平均値と昨年度の平均値の差であり、項目 1 の数値▲0.09 は昨年度に比べて今年度の平均値が 0.09 下がったことを示している。0.1 以上の増減について増えたものには↑を、減ったものには↓をつけ、これらの項目については変化があったと判断した。なお、0～0.09 の増減については、昨年度並みと評価する。

⑦ すべての項目の平均値が 3.2 から 2.8 の中にあり、このことは本校の職員がすべての項目について「ほぼ取組ができています（6 割以上取組ができた）」と考えていると判断できる。

⑧ 評価が上がった項目は、項目 10（学校は、教務・舎務・事務の円滑な校務連携を図り、

会議や文書作成等の効率化、業務のスリム化などについて改善・工夫に取り組むことができたか。0.11)、**項目 14** (学校は、カリキュラム・マネジメントをツールとし、児童生徒の学びの連続性を意図した教育課程の充実と改善を図ることができたか。0.12) が挙げられる。

- ⑨ 評価が下がった項目は、**項目 13** (学校は、自発性や主体性を育むため、指導形態や指導体制組織を効果的に活用し、個の学びと集団での学びをバランスよく進めることができたか。-0.1)、**項目 16** (学校は、地域資源を活用した学習活動や交流及び共同学習を進めるとともに、児童生徒の社会参加の取組を充実させることができたか。-0.34)、**項目 17** (学校は、キャリア発達をふまえ、各学部段階における進路学習・進路支援を充実させることができたか。-0.13)、**項目 19** (学校は、教務・舍務及び専門職が連携して児童生徒の健康管理を進め、医療的ケアへの対応、食に関する指導の充実など、健康の保持・増進を図ることができたか。-0.22)、**項目 20** (学校は、寄宿舎における個別の指導計画に基づき、一人一人に応じた生活指導、健康・安全指導、余暇指導を充実させることができたか。-0.12) が挙げられる。

- ⑩ 評価の高い項目 (3.15 以上) として、**項目 6** (学校は、地域におけるセンター的機能を発揮するなど、地域から信頼され、地域と交わりある学校づくりを進めることができたか。3.17)、**項目 10** (学校は、教務・舍務・事務の円滑な校務連携を図り、会議や文書作成等の効率化、業務のスリム化などについて改善・工夫に取り組むことができたか。3.15) が挙げられる。

- ⑪ 評価の低い項目 (3.05 以下) として、**項目 1** (学校は、教職員一人一人が、専門職としての職責や役割を果たし、主体的な経営参画のもと、教育活動と経営活動を一体化させた学校運営を進めることができたか。3.03)、**項目 3** (学校は、各組織・部門が有機的に連携し、円滑で効果的な校務運営の改善を図ることができたか。3.04)、**項目 4** (学校は、肢体不自由教育の専門性の向上、各職種の専門性の向上を図るため、研修の充実を推進することができたか。3.03)、**項目 14** (学校は、カリキュラム・マネジメントをツールとし、児童生徒の学びの連続性を意図した教育課程の充実と改善を図ることができたか。3.01)、**項目 16** (学校は、地域資源を活用した学習活動や交流及び共同学習を進めるとともに、児童生徒の社会参加の取組を充実させることができたか。2.81)、**項目 17** (学校は、キャリア発達をふまえ、各学部段階における進路学習・進路支援を充実させることができたか。3.04) が挙げられる。